

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームゆりのき苑
(ユニット名)	Bユニット
所在地 (県・市町村名)	和歌山県有田市千田403-1
記入者名 (管理者)	阪井 ゆき
記入日	平成 20年 8月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で「自由」「尊厳」「歓び」のある生活、地域との結びつきを大切にしている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員に理念は浸透しており常に理念を意識し日々仕事に取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には来苑された時、基本理念を書いた物を見やすい場所に掲示しており、十分理解を得てもらっている。今年のゆりのき夏祭りでは、日々の生活の写真を貼りどのような生活をしているか、理解してもらえよう工夫した。ただ理念をそのまま記入することはしなかったが、皆と同じように生活していることを理解してもらえよう努めた。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	基本的な事であるが、必ず挨拶をし時には立ち話をもし、玄関前のベンチで話すこともあり、秋祭り、ソフトボール大会への参加させてもらったり、ゆりのき夏祭りには近所の方々が多数参加してくれるのでつき合いは十分できている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋祭り、ソフトボール大会、小学校の運動会、カラオケ大会など地域の行事には常に参加させてもらい、地域の清掃活動、ゴミ置き場の掃除等交流に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	まだまだ支えてもらっている状況であり、これからの課題として考え取り組んでゆきたい。玄関前のベンチに立ち話をしてる方々には、遠慮無く座ってくださいと声掛けを行っている。	○	来年の花見には、地域の方々にも参加を呼びかけたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	常に基本理念を頭におき、外部評価の結果を真摯に受け止め改善すべきところは職員間で話し合い、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、区長、市役所の職員、利用者の家族の参加を得て、報告や話し合いを行い、意見はサービスの向上に役立てている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、電話、来苑、市役所を訪れる等の行き来する機会も多く相談や意見の交換等にて質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットや講演等にて学び、必要性のある方には支援を行える態勢を整えているが、今のところ必要性のある方はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加をしたり、職員全員が虐待防止について理解しており、その様な事はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書も見易く説明は丁寧に行い、質問・疑問点については、いつでも受け付けその都度納得の行くよう説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・苦情はいつでも受け付けており、会話の中からもさり気なく探り出すよう努力しており、不満を取り除くようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ゆりのき通信を月1回発行しており、各々の様子をコメント欄に記入し送っている。又何等かの変化があればその都度、家族に連絡をしている。異動・退職についても、ゆりのき通信にて連絡を行うように改善した。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来苑された時、又電話をかけた時等に何か要望は無いか、不満はないか訪ねるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回のカンファレンスの機会に皆の意見を聞いたり、普段からも色々と職員の意見を聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	グループホーム全体で職員の協力態勢も整っており、診療の付き添い等には、勤務に支障が出ないようフリーの職員が付き添っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動者・離職者についてはさらりと流し、新職員についてはなるべく早く馴染んでもらえるよう声掛けをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は経験等に応じ順次受講するようしており、受講内容は回覧にて全職員が周知できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修は同業者ばかりの研修もあり、それを通じてネットワーク作りや相互訪問等の機会を設けお互いに質の向上に励んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	誰かに聞いてもらう事で、ストレスを解消している人が多いので、それで解消できる人には、管理者が徹底的に話を聞く。時々アンケートを実施し皆のストレス度を調査している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	なかなか難しい事ではあるが、職員個々の努力している点、勤務状態における優れた点では自分で気付いてない場合が多いので誉めて良い点はのばすよう努力している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	さり気ない会話から、本人の望む生活はどのような生活か探り出す。ずばり聞いてしまうと遠慮して本心を語ってくれない場合があるので、あくまでもさり気なく聞き出す努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族には、ずばり聞く。その話と本人の要望を照らし合わせることができ、その人自身、家族を受容できるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の必要としているサービス、今何が必要かというサービス内容は約1週間をめどになるべく早期に対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初から無理強いすることなく、徐々に安心感を持ってもらうことからスタートし、家族と連絡を取り合いながら進めている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訴えに対して共に考える。また戦争の話しを聞いたり知恵を授けられたり、利用者の方々から学ぶ事も多くあり、逆に色々な場面で助けてもらう事も多い。又、言うてはいけない差別的な発言があれば、真剣にそれについて語り合う。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	互いに連絡を取り合い、協力を仰いだり相談に乗ってもらうこともあり、通院等も家族に行ってもらったり、職員、家族共に入所者を支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	上記と同様で入所者が淋しいと思っていたり、会話の中で家族に会いたいと思っている事を察した時は、面会に来てくれるようお願いしたり、電話にて話すように支援している。	○	今年は、年賀状を家族宛に描いてもらった。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間等定めておらず、いつでも会いに来て頂けるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	歩行可能な人に車いすを押しもらい、散歩に出かけたり、職員が間に入り孤立しないよう声かけを行い、仲間の輪に入れるようにしている。	○	寝たきりの入所者もおおり、時間の許す限り職員が訪室し、談話を楽しんだり、他の入所者を誘って訪室している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された入居者の家族の方との手紙のやり取り等あり、いつでも手をさしのべられるようにしている。その様な関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活リズムの尊重に努め、服装も個性的であり、どのような生活を望んでいるか入所者本位の支援を行っている。又1人の職員が聞いた情報は職員全員がチームとして共有し支援の検討をしている。	○	ケアマネの情報も必要な時があり、連絡を取り合い提携を図っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートに記入してもらっており、理解するよう努めている。ただ書いてくれない家族もあり、会話・行動等によりどのような生活を送って来たか推測する努力をしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所者の方の希望をできるだけ聞き入れると共にできないことは何故できないのか納得のいくまで話し合う。心身状態についてはケース記録、申し送りノートで伝えるシステムになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意見、家族の意見その他関係者(例えば、PT・ケアマネ)の意見をよく聞きできるだけ自立、ADLの維持向上、QOLの向上を目指した計画書を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低3ヶ月に1度の見直しを行っているが、著しい変化が見られた場合はその時点でモニタリング・アセスメント・計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケース記録に残すと共に、申し送りノート・疑問質問ノートを活用する事により、職員は情報を共有し見直しに活かしている。	○	又、緊急の場合は、その日の勤務者のみで話し合い申し送りノートを活用し他の職員に伝える事もある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	いつでも外泊・外出・通院等移送サービスができる態勢であり、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察には万が一の時の徘徊のある入所者に対する支援、消防には避難訓練、民生委員には運営推進会議への参加等色々な部分で支援を頂いている。またボランティア・職場体験・高校生実習も積極的に受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところその様な要望が無いが、要望があった場合は対応する。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所者は、介護度が出ており事例がない。	○	その様な例がでてくれば、地域包括支援センターと協働し努力するつもりである。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を希望する場合は、そこへ受診に行ってもらっている。理解できないことは、電話で問い合わせを行い連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保には細心の注意を払っており記録途中のケース記録も席を立つ時は、入所者の目の届かない所に置き直す。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の理解能力に応じた問いかけを行っており、それでも理解できない場合は、問いかけの仕方を変えたりとなるべく本人の希望や決定を引き出す努力をしている。	○ 入居者同士の口論は、すぐに職員が介入しないで見守ると、入居者どうしで解決する事も多い。トラブルに発展しそうな場合は、職員が介入し収めるが、極力皆で話し合うようにしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思い思いに過ごしていることが多く、自分のしたいことをしてもらっているので、支援と言うより自然に過ごしてもらっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服を買う時には必ず本人と出かけ、一緒に意見を聞きながら買い物をする。美容院も自分の行きたい時に行きたい店に行っている。	○ 買い物の代行を頼まれる場合もあり、行ける日に一緒にいきましようと言かけをするが、強引に買って来てと言われる場合もあり。どのような物が良いか事前に聞き代行するときもある。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー・食材選択(買い物)等、個々が持っている力をフルに発揮してもらっている。食器拭きも出来なかった方が、皆で行うことにより徐々に出来るようになった例もある。	○ 回想療法的に職員や、他の入所者がしているのを見て、思い出しADLの向上につなげたり、自信を取り戻すよう援助したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	苑の買い物につき合ってもらった時、個々に自分の欲しい物を購入している。又、その人のみの買い物に行くこともある。夕食前にビールをたしなまれる方があり、美味しそうに飲んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自立の方は別として尿意曖昧の方は、排泄パターンの把握から初めトイレ誘導を行う、失敗してしまったときは、素早く処理し、何もなかったかのように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜勤帯以外は、いつでも入浴を楽しめるようにしている。各日に入浴される方もいれば、毎日入浴される方もいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれに大体ではあるが、入眠する時間が決まっておりその時間になると居室誘導を行う。眠れない方は談話をしたり軽く何かを飲んでもらったりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分で出来ることは自分で行ってもらい、買い物好きな方は、一緒に買い物にでかけ、花の好きな方は苗を植えてもらったり、近所に花を見せてもらいに行ったりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理が出来る方は自分でしており、管理出来ない方は、職員が付いて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は勿論、遠くへ行きたくない方は、外気浴だけでも行ってもらい、外の空気に触れる支援をおこなっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事や、カラオケ大会等の参加で家族と共に見られ楽しんでいる。	○	疎遠になっている方とも交流が図れるよう働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、自分でかけられる人は自由に使用している。自分で使用出来ない方は、職員がかけ相手が出たら代わっている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関は開放しており、面会時間も定めておらず、来苑はいつでも歓迎する。居室で過ごす方もいれば、リビングで過ごす方もいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関する研修にも参加しており、夜勤帯1人の時は安全確保のために入口を施錠するのみ。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	拘束に関する研修にも参加しており、夜勤帯1人の時は安全確保のために入口を施錠するのみ。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	トイレ・入浴のプライバシーには特に注意を払っている。居室で過ごす時間の長い方には、必ずノックをし入室し、様子に変化がないか確かめる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食・誤飲につながる物は、夜は必ず片付け、包丁も食品庫に入れ鍵を掛けている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの行動パターンを把握すると共にそれに対する対処法を職員で話し合い、事故防止につとめている。万一が事故が発生してもどうすれば一番リスクが少ないかを常に意識している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当マニュアルもあり、いつでも目を通せ少しでも慌てず対処出来るように努めている。又救命講習も受講している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の協力を得て避難訓練は年1回は行っている。又、近所の方にも避難訓練に参加してもらっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の協力なしではリスク対策は成り立たず、家族からの提案、職員からの提案全てに対処・検討している。	○	必要ならば、医師・PT等からの意見・提案も取り入れている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食事摂取量、検温は食事毎、1日1回は行っており、少しでも普段と違う様子があれば申し送りノート等の活用を行い様子観察を強化している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ノートは職員がいつでも見られるようになっており、分からない事は、医師になるべく聞く、調べる等の努力をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	まず排便周期を把握し、医師と相談し、どの様な排便方法にて排便するか決定する。又、水分摂取に努め、腹部マッサージを行ったり、繊維質の多く摂れるメニューを提供。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝夕の口腔ケアは徹底しているが、昼食後に口腔ケアをする習慣がない方には、お茶を飲んでもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残すと悪いと思われる方もいるので、なるべく食べきれる量の把握に努め、適量を提供するようにしている。ミキサー食、刻み食にも対応している。一日30品目を目標にしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがあり、これも職員がいつでも見ることができる。又、手洗い・消毒を励行し、職員が媒体とならないようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買い物に行き、新鮮な物、旬の物を購入し、衛生管理にも努めている。賞味期限にも注意し、消毒剤で布巾の消毒は必ず1日1回は行う。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に鉢植えの花を置いたり、出来るだけ家庭的にしている。玄関は、常に(夜以外)開放している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る。白内障の方が多いためレースのカーテンは引いておく。食事中はBGMの音楽を静かに流している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルは2カ所に分け、TVの前にはゴザを敷き、ソファも置いてある。エレベーター前には、机と椅子も置いており好きな所に座る。	○	エレベーター横のスペースは西日が当たり暑く、階段も近いので注意は怠らない。しかし冬場は暖かくその場所を好む方もいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルな部屋が好きな方もいれば、何かと飾るのも好きな方もおり、それぞれ思い思いの居室にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、夕の換気に加えて臭いが気になるときは、その都度換気をしている。夏でも風が涼しい場合は、自然の風を入れる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室も本人の使い勝手の良いようにしている。パブリックスペースはなるべく足元に物を置かない。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家具等の移動は避け、光の調整にも気を配っている。声掛けには本人の理解度に合わせ工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは狭いが少しの野菜・花を植え育てている。ベランダから外を眺めたりもしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①二人の方を看取らせて頂いたことは、職員にとって看取り・尊厳死ということに対して、考え、話し合い自分たちの出来る範囲は何処までか、どう介護を行っていけばいいのか、医師、家族とより連絡を密に行い考えた。チームとして良い看取りが出来たと思う。床ずれらしい床ずれもできず最後まで入浴を楽しみ、美しい顔で逝かれました。この事は職員にとって勉強になり、自信にも繋がりました。より家での近い状態で看取れた事は、利用者の方にとっても幸せであったと信じています。

②細かいことですが、皆はそれぞれ陶器茶碗で食事を楽しんでいますが、食事中に手の振るえがあるため滑らせ、茶碗を割ってしまった方がおられました。茶碗を割ってしまったと言うことが、ショックのようです。すぐさま落としても割れないメラルミンに替えました。(なるべく陶器に見えるような)それからは、落としても割れず食事を楽しんでおられます。やはり皆の楽しみは食事だと思いますので、なるべく食べやすく負担のないよう工夫は怠りません。1日3食の食事を心待ちにしてくれ「美味しかった」と言ってくれるのが、職員もとても嬉しく思っています。美味しく食事を出来ることは幸せなことですから。